

う。現在、月に一度 本院 大松院にて練習会
をしています。ご希望の方があれば、霊園でも
開催したいと考えています。興味ある方は、一
度聞くだけでも結構です。お気軽にお問い合わせ
してください。

◇問い合わせ先 管理事務所
担当 三浦清志
☎048-812-1121



ご法事を行う意味

仏教では、人が亡くなると、仏さまの弟子と
して「戒名」を授かり、葬儀で仏弟子となつて
仏さまの世界に旅立ちます。その旅路では「十
三仏」という仏さまに導かれて行きます。それ
ぞれの回忌の仏さまから功德をいただき、生き
ている私たちからあちらの世で泰らであります
ように祈り、故人を応援してあげるのが「ご法
事」です。そして、その功德は、亡き人の為だ
けでなく、回りまわって、生きている遺族にも
及ぼされると考えられています。ご法事を通じ
て、皆様が心穏やかに過ごされることが、亡き
人への最高の供養になると思います。

三浦清志 記

ご法事に用意するものについて

ご法事をお勤めする際に、お飾りするも
のを事前にご連絡しております。特に「お
位牌」と「お写真」は故人を偲ぶ上で、大
切なものです。ご自宅にお祀りしてある方
は、必ずお持ちいただきますようお願い申

し上げます。また、事情があつてお位牌
を作っていないご家庭の方には、ご希望が
あれば大松院 副住職が書きすることも
できます。詳しくは、霊園管理事務所まで
お問い合わせください。

もしもの時は…

もし、大切なご家族にご不幸があつた時
は、まずは、霊園管理事務所にご相談くだ
さい。ご葬儀の手配やご葬儀後の手続きな
どについてご案内致します。また、生前戒
名のご希望や、葬儀は俗名で行つたが、戒
名を授与してほしいなど、ご供養に関する
お問い合わせも受け付けております。まず
は、お気軽にご相談ください。

霊園管理事務所 048-812-1121

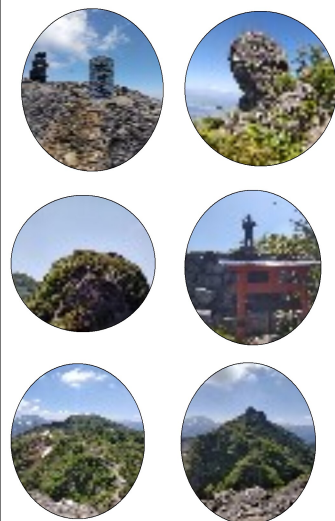


副住職の修行体験記

私は、修験道のことをさせていただいております。
いわゆる「山伏（やまぶし）」と言われるものです。
その修行は、野山に分け入り自然の中で、仏さまの世
界を感じる実修練行するのが修験道です。定期的に山
へお参りしています。今回は、新潟県六日町の『八海
山』へお参りしてきました。謂れは、昔 頂に八つの
池があつたので、それが山の名前になったそうです。
八海山には、八海大明神または八海大神という神様が
まつられています。また、八つ峰という断崖で八つに
別れた大きな岩があり、ほぼ垂直に上り下りする、そ
の岩には薬師岳、地藏岳、不動岳、七曜岳、白河岳、
釈迦岳、摩利支岳、剣ヶ峰、大日岳と名がついていて、
仏教も深く関わっていたと思われまふ。

何しろ、断崖の多い山で、大変スリリングでした。

三浦清志 記



↑浦和霊園公式HP



↑大松院Facebookページ



浦和霊園だより

VOL. 30

令和6年6月号

TEL 048-812-1121

FAX 048-878-7272

編集者

副住職 三浦清志

ご挨拶



大松院住職

小林 智 観

みなさま こんにちは。昨年の秋に住職を拝
命いたしましたから、早いもので半年以上の月
日が経とうとしております。未熟な身ながらも
この半年、何とかやってくることができました
のも、ひとえに浦和霊園に集うみなさまのお支
えがあつてのことと、心から感謝申し上げます。
さて、今年ももうすぐお盆の季節がやつて参
ります。お盆というと、思い出すことがあります。
す。子供の頃、お盆の時に、私には決められた
お仕事がありました。それは「セガキ」の「ミ
ズノコ」を作ることです。「セガキ」が何なの
か、「ミズノコ」がどんな字を書くのか、何も
分からないままでしたが、茄子と胡瓜を賽の目
に切つて、茹でたお素麺を水をはったお皿に入
れる。そのようにして「ミズノコ」を作ること
が何かおまごのようで楽しく、私は自ら進
んでミズノコ作りを自分の担当としていました。
「これは普段ご飯を食べることができない鬼さ
んたちにお供えするのよ。あなたが作ったこの

ミズノコだけは鬼さんたちが食べることができ
る。だから毎日お供えしてあげるのよ」
母にそうに言われ、自分のしていることが誰か
の役に立っていると知り、幼い私はますます得
意になってミズノコ作りに励んだものでした。
私たちの宗派 真言宗の開祖 弘法大師 空
海さまは、自己を深め、他者の救済を目指して
教えを広められました。その教えの中には、お
盆、施餓鬼の法も挙げられます。

「施餓鬼(セガキ)」というのは、「餓鬼(ガキ）」
という、誰にも供養されず、食べることも飲む
こともできずに苦しんでいる存在に施しをする
ことです。生前、欲張りで嫉妬深く、人のため
に尽くすことがなかった人が死後、生まれ変わ
った時に餓鬼になってしまふのです。そのような
いつも辛い思いをしている餓鬼を、水の子を供
えたり塔婆を建たりしてすることで苦しみから
救つてあげる。それが施餓鬼です。

施餓鬼の功德は、自ら犯した罪を消し、息災、
延命長寿を得られるといわれております。その
根幹にある考え方は、自分のことだけにとらわ
れず、他者に対してもおもいやりの心を持つて、
悩み苦しんでいる人に寄り添いましょう！とい
うことです。私たち人間は、一人では生きてい
くことが出来ません。家族や友人、社会、様々
な人とのつながりがあつて、初めて自分の存在
が生かされています。そのことに気が付き、自
分の執着から少しでも離れて、施しをするとい

暮らしの中の仏教用語

「会釈」(えしやく)

現代では、軽く頭を下げて一礼を
する、ちよつと挨拶するなどの意味
合いで使われていると思います。仏
教では、教えの解釈に違いが生じた
ときなどに、相手に考えが通じるよ
うにする「和会通釈」が略されて
「会釈」なつたようです。どんな時
代でも、人と人は、コミュニケーション
ンが大切で、何においてもまずは挨拶
からということでしょう。日々、人
に会うときは、にこやかに挨拶出
来たら、お互い気持ちが良いもので
すね。



十三仏について ⑤

十三仏とは、初七日忌から三十三回忌までの間、故人を守護し、お導きくださる仏様です。故人は各忌日ごとに配された十三の仏様の功德をいただきながら、最終的には仏様となって子孫を守ると考えられています。その十三仏についてシリーズでお話させていただきます。



十三仏

【五七日忌 地蔵菩薩】

今回は、五七日忌の御本尊 「地蔵菩薩」です。「お地蔵さん」と呼ばれ、皆さんには、一番なじみの深い仏さまかもしれません。地蔵とは、大地の蔵を持つ仏さまという意味です。つまり、大地があらゆるものを育てるように、全ての人を限りなく救っていくことです。仏教には、お釈迦様が入滅（この世を去った）されてから五十六億七千万年後に弥勒菩薩という仏様が現れて、私たちを救済して下さるという逸話が残っております。遠い未来に弥勒菩薩が出現して下さるまでの間、私たちを救ってくださるのがこの地蔵菩薩です。

図のように、右手には錫杖という法具を持つ



地蔵菩薩

ています。シャクシャクという音で、私たち衆生（生きとし生けるもの）の煩惱を取り払ってくれるものです。左手には宝珠という玉のようなものを持っています。これは修行を深める為の智慧や信仰心を育ててくれるものです。地蔵菩薩は、六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天）の六つの世界にわたって救いをくださる仏様です。この世の命あるものは、必ずこの六道のうちのどれかに転生するものと考えられてきました。お地蔵さまは、どこへ行っても必ず救ってくださるわけです。

また、幼くして亡くなられた子供を救う仏さまとしても活躍するとされています。各地で物語や和讃などで残っているのは、賽の河原での物語です。亡くなった子供が石を積んで塔を作っていると、そこに三途の川の鬼が現れて、塔をめちやくちやに崩して子供たちをいじめます。するとそこにお地蔵様が現れて、泣いている子供たちを救ってくださるというお話です。そうした全ての人を救うというお地蔵様のお誓いはとても慈悲深く、有難く思えばかりです。

三浦清志 記
（次回 六七日忌 弥勒菩薩へ続く）

亡き人の声を心で聞く

「身は花とともに落つれども、

心は香とともに飛ぶ」

『遍照發揮性霊集』第八

子供の頃は、お盆にご先祖様が帰ってくると言われても、何か遠い存在の話でその意味がよくわかりませんでした。歳を重ね大切な人を見送ると、亡き人が帰って来るその期間の特別な意味がしみじみと感じられます。

亡き人を偲ぶ時、もつと色々な話がしたかった、してあげたいことが沢山あった、色々な思いが湧き上がってきます。手を伸ばしてもその人はいないし、話しかけても答えは返ってこない。自分の思いだけがただ宙に漂っているかのように感じられ、そんな時「ああ、あの人はもう居ないのだ」と心に小さな痛みが走ります。

しかし私達は心のどこかで知っています。姿は見えなくなってしまうても、亡き人の心は消えてなどいないことを。お大師様がおっしゃるように、浄らかなお香のように、私たちの内に確かに存在していることを。

亡き人の心の声は、耳で聞くことはできません。でも、心で聴くことができます。亡き人に語りかけた時、心に湧き上がってくる言葉、それは自分の願望でも思いこみでもなく、きつと本当にその人からのメッセージなのだとは思っています。

もうすぐお盆がやってきます。いつも私達を見守ってくれている大切な人を、今年も心を込めてお迎えしましょう。

小林智観 記

合同慰霊祭のご案内

今年のお盆を迎えるにあたり、左記の通りご供養の合同慰霊祭を執り行います。本来は、柵経（たなぎよう）と言って、各ご家庭にお迎えになられたご先祖様の盆棚の前にてご供養するものですが、当霊園ではこちらに出向いて頂いて行っております。ご参加お待ちしております。

◇日時 7月13日（土） 11時～

8月13日（火） 11時～

◇場所 霊園会館 2階 礼拝堂

◇参加費 一霊につき 金5千円

※当日、供養された方のお位牌を持参ください。

※お申し込みは、お電話でも結構です。供養されたい仏様のお戒名・俗名・施主名をお伝えください。

※ご希望のご家庭には、個別に自宅にお伺いする柵経もお勤め致しますので、お問い合わせ下さい。お申込・お問い合わせは霊園管理事務所まで

TEL 048-812-1121

【送り火の夕べ】のご案内

当霊園の恒例行事であります、「送り火の夕べ」を本年も開催いたします。8月のお盆の最後に、皆様と共に、ご先祖様を送りする「送り火」を一緒に体験しませんか？お焚き上

げは、どなたでも参加頂けますので、送り火の清らかな火で身も心も浄化して、心新たに年の後半を迎えましょう！

◇日時 8月15日（木）

◇法要・法話 17時半 霊園会館2階 礼拝堂

◇お焚きあげ 18時半 霊園第二駐車場

◇参加費 無料

（精霊舟は、事前予約制 金3千円）

※当日、礼拝堂に入場する方は、一家族につき、代表者1名でお願いいたします。

お申込・お問い合わせは霊園管理事務所まで

TEL 048-812-1121



仏教勉強会のご案内

仏教に興味がある」「写経や写仏をやってみたい」「大松院にお参りしてみたい」という方はどうぞお気軽にご参加ください。

◇場所 大松院

さいたま市浦和区東高砂町19-4



みんなで楽しく仏さまのお勉強

ご詠歌で健康に！仲間募集中！

ご先祖様の供養のために、また、ご自身の信仰を深めるために、ご詠歌をお唱えしてみませんか？ 唄うことは、のどが鍛えられ、肺活量が増えます。ひとつの健康法になることでしょ